

へき地をはじめとする地方における音楽アニメーションの試み ～音楽経験のある現職教員の活性化に資する活動～

芳 賀 均

(北海道教育大学旭川校)

Trial of Music Animation at the Rural Area: Activity Which Contributes to Activate to the Incumbent Teacher who Has Music Experience

Hitoshi HAGA

(Hokkaido University of Education Asahikawa Campus)

概 要

子どもが生演奏で音楽を聴く、実物の楽器を見るといった特別な実践を包括する、教育の質の向上を図るための学習である「音楽アニメーション」は、音楽教員に、ともすれば忘れかけそうになる「音楽家」という感覚を呼び覚まし、生涯学習の大切さを再認識させてくれる活動である。地方、特にへき地に在籍する現職教員が、生涯音楽家であり続け、生涯学習の大切さを実感してもらえるような機会を設定したいと考え、へき地をはじめとする地域において、音楽アニメーションの活動を試みた。その際、アウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏に、地方の現職教員を演奏者として加える方法で行った。

実践に参加した教員に対してアンケート調査を行い、その記述をSCATにより分析し、検討した。その結果、へき地には、演奏会などの機会が少なく演奏の場がないということが確認できた一方、子育てや職務の多忙により教員自身が音楽や楽器に触れられる機会が減少している中、教員自身が音楽の楽しさを改めて実感できたり、子どもたちや保護者にも音楽の楽しさを伝えたりできる活動であることが確認できた。

1 はじめに

地方、とりわけ、へき地においては、音楽を専攻したり音楽経験があったりする教員が町村内にごくわずかしかに在籍していない場合がある。もし、小学校・中学校が各1校しかない（さらに高校もない）町村においては、音楽専攻の教員が1名しか在籍しない場合がある。教材研究や効果的な授業方法についての情報交換をする相手もおらず、孤独な状況における実践や研究に取り組まねばならない。

また、小規模校勤務となれば、例えば、教務・生徒指導を各1名の担当でこなすことになる等、1名あたりの業務の種類も多くなる。

このような状況においては、アンサンブル（合奏・合唱等）する仲間の不在や日常の業務に追われる等の事情から、自身の音楽演奏の機会が得られない状況におかれることになる。かつて、筆者もそうした状況にいて、ポピュラー音楽を題材にしたバンド活動を行う形で、仲間を得ながら演奏活動に取り組んだことがある。しかし、題材をより専門性を要するクラシック音楽にするならば、上記のような活動にも困難さが増すと考えられる。

そこで本実践では、音楽アニメーションの活動を通して、

地方、特にへき地に在籍する現職教員が生涯音楽家であり続け、生涯学習の大切さを実感してもらえるような機会を設定したいと考えた。

「教員は職務に専念すべきであり、演奏したいなら演奏家になればいい」という趣旨の意見もあろう。しかし、子どもたちが鑑賞する演奏が常にレコード（CD）であったり、ごく少ない機会のプロの演奏家によるものばかりであったなら、自分たちとは別世界の産物であるかのような印象をもたないとは限らず、音楽との距離を拡げてしまう可能性はないだろうか。身近な教員の演奏に触れられることで、音楽との接点を近く広くすることを可能にしたいところである。また一方、教員にとっては、趣味というあり方でも構わないのではないだろうか。趣味をするのも、教員の仕事をすることも一つの同じ人間であって、分離的に捉えることは不可能である。リフレッシュ程度であったとしても、それは苛酷なへき地勤務に取り組む上での力となりうるのではないだろうか。筆者は、この実践が、ひいては地域の音楽文化の向上につながり、子どもたちを取り巻く音楽的環境の充実につながることを期待したいのである。

2 本研究について

本研究では、へき地をはじめとする地域において、音楽アニメーション（次節で後述）の活動を試みる。その際、筆者らが平成26年度から継続しているアウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏（〈4〉で後述）に、地方の現職教員を演奏者として加える試みを行う。実践に参加した教員に対して「地域貢献として」「教員養成として」「子どもたちへの教育として」「先生方にとって」「自由記述」という項目を設けた、思い思いに書いてもらう形のアンケート調査を行い、その記述をSCAT（〈5〉(2)にて後述）により分析し、検討する。なお、本稿では同時に、アウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏について、演奏への参加の有無にかかわらず現地の教員に対してアンケートを取った結果を掲出する。さらに、教員養成の取組としているため、参加する学生（【図1】参照）に対するアンケート結果も掲出する。それらは本研究に関わる要素であるため、併せて参考として〈4〉において整理する。



【図1】アウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏に参加する学生（平成30年5月25日・森健一郎撮影）

3 音楽アニメーション

アニメーションとは、「ラテン語の《anima（魂や命を意味する語）》に由来し、『魂や命を吹き込むこと』即ち『活性化』を意味する言葉」¹⁾である。「特に南欧、フランス、スペイン、イタリアにおいて、社会開発、文化、芸術、教育、福祉、スポーツ、余暇、娯楽、祭典など幅広い分野で使われている重要な概念であるとされる。ラテン語のアニマ(anima=魂・生命)を語源として、『すべての人間がもって生まれたその命・魂を生き生きと躍動させること、生命力・活力を吹き込み、心身を活性化させること』を意味しているという。また、『教え、学ぶ』営みである『エデュケーション』とは違って、遊びや余暇や文化活動を通して、面白さ・楽しさ・歓びを追求しつつ精神を活性化させ、人間が豊かに成長していく独自の営みをとらえた概念で、『学ぶこと』や『働くこと』をも根底から支える人間生活の根源的なエネルギーを生み出す機能」²⁾とされる。「音楽アニメーション」とは、「児童が普通の授業では得難い経験、例えば音楽家の生演奏で

音楽を聴く、生演奏に合わせてアンサンブルを経験する、実物の楽器を見る・ふれる・音を聴くといった活動的な実践を包括する、教育の質の向上を図るための学習」³⁾である。フランス・パリ市における制度としての音楽アニメーションは、「市が無償提供する（中略）就学時間に行なわれる課外学習活動で、（中略）音楽教員が年に一度は活用する」⁴⁾もので、「小学校音楽教員に、ともすれば忘れかけそうになる『音楽家』という感覚を呼び覚まし、生涯音楽家であり続けるために必要な学びの環境を創出し、生涯学習の大切さを再認識させてくれる」⁵⁾意義をもつ。

参考までに、国語科においては、しばしばアニメーションという用語を耳にするものの、「日本ではアニメーションという言葉が読書の一手法であるかのようにとらえられた経過もあるが、今となってはそれは大きな間違いであったと言える」⁶⁾との指摘もある。

なお、本実践では、筆者らが平成26年度から継続しているアウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏⁷⁾に、先述のフランスの事例を踏まえた上で、地方の現職教員を演奏者として加える形で、音楽アニメーションの試みを行うことにした。

4 アウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏

(1) 演奏について

筆者らが取組を継続している「アウトリーチによる地域貢献としての音楽演奏」の実践については、本誌前号「音楽におけるアウトリーチが教員養成に与える効果と演芸を取り入れる試み」⁸⁾で整理したとおりである。以下にその概略を掲出する。

- ①へき地の方々、および、教員養成課程の学生の、双方に対して意義をもつ。
 - ・演奏家による生の演奏に触れることのできる機会が決定的に少ないという状況のある、へき地の方々にとっての意義として、「へき地においては触れる機会の少ないものを観ていただく」「工夫した演奏会づくりを通して、創造のヒントを示す」「地域の人に活躍してもらい、主体的に楽しみをつくることへの啓発とする」ということ。
 - ・教員養成課程の学生にとっての意義として、「演示力等の表現力の向上」「工夫した演奏会づくりを通じた授業にも生かせる構成法の学習」「へき地への抵抗感や不安感の低減」「どんな地域でも勤務できるという意識の向上」が挙げられる。
- ②表現力や構成力、演示力の必要性は、とりわけへき地に限ったことではない。しかし、へき地で行う理由として、上の①で述べた2つの側面から、へき地やへき地教育の振興に、直接的あるいは間接的につながるものであるということが挙げられる。また、へき地の聴衆は、肯定的に演奏を受容してくださる傾向がある一方、演奏会そのものへの馴染みの薄さや、地域住民以外の人間に対して奥ゆかしく接する傾向もある。コミュニケーションは演

奏者と聴衆の双方向の関わりによって成立するが、演奏者の側が、より積極的に働きかける必要がある。学生は、コミュニケーションが成立せずに膠着した状態を、自ら打開していく能力を身に付けていかねばならない。それらの点に、へき地で実践することの意義がある。

- ③純粋に演奏のみが目当てで聴きに来る聴衆を対象としたものとは異なり、この本実践では、需要の発掘を目指す。鑑賞意欲の高低や音楽への関心の濃淡が多様な聴衆の存在する状況を克服する困難さは、公立学校の授業と似通っているといえ、教員養成に資すると考えられる。教員養成や、よりよいアウトリーチのためには、需要の発掘を目指すことで迫ることができる。
- ④単なるレクチャーコンサートとは異なる。双方向の舞台として、聴衆の反応や意思を確認しながら次の内容に進む。一つの話題について、例えばホルンの構造の説明においては、スモールステップで聴衆と対話しながら解説のパフォーマンスを行う（単なるレクチャーコンサートの場合は、一方的（片道）な演奏となるものも、3往復以上のやり取りが行われることになる）。

（2）参加した学生の感想（平成30年5月）

参加した学生に対するアンケートの設問①～④とそれに対する回答（全て掲載、原文ママ、下線は筆者）は以下のようである。

①へき地をはじめとする地域に行くこと自体への感想

- ・今まで行ったことがない地域へ行くきっかけとなったことがよかった。その地域に行ってこそ分かるよさや雰囲気があると感じた。こちらから出向くことによってつながりができていくことに魅力を感じた。
- ・今まで教育実習などで旭川の小・中学校に行かせていただき、子どもの実態、学校の実態、先生の様子などを知りました。しかし今回、へき地をはじめとする地域に行かせていただいたことで、当たり前のことですが地域・学校により、子どもや学校の実態というのは本当に様々なのだということを知ると同時に、それを直接肌で感じました（子どもがどれだけ生き生きしているか、先生方がどのくらい熱心か、音楽の授業がどのくらい充実しているかなど）。しかし、どのような地域でも同じように子どもたちがいることには変わりなく、そういうところにこそ、子どもたちがさらに生き生きと生活したり楽しく学んだりするためのものが必要だと思いました。
- ・普段自分が暮らしている町とは全く違う環境で刺激になった。特に様子は、海沿いでも浜頓別とはまた違った空気がありそれを体感することができた。
- ・教育実習Ⅱで旭川市内の小学校に行ったことで、あらためてへき地の学校や子どもたちの魅力に気付くことができました。まず、旭川の子どもたちは、大人との距離感をわかって積極的に接している子が多いように感じましたが、今回キャラバンで行った地域の子たち（特に和琴小学校、高静児童館）は、最初の距離感が遠いように思

いました。普段から外部の人と接する機会が少なく、へき地の子どもたちは警戒心が強いのかもかもしれません。その分キャラバンを通して後半に連れてだんだんこちらへの関心の示し方が市街の子たちより変化が大きかったと思います。また、市街の子たちに比べて、好奇心が旺盛であると考えました。知らないもの、普段直接目にする機会があまりないものが多い分、市街の子どもたちより反応も大きく、学校の授業であるかにもよると思いますが、演奏会後のこちらへの関心の度合いも違うと思いました。へき地で行った演奏会中は、あまりこちらを向いてくれない子の方を見て目が合うと、それからずっとこちらを見てくれていたことも印象的でした。以上を踏まえ、へき地に外部の人間が行くことにも大きな意味があり、また、本物の楽器を生で見せることへの重要性を実感しました。

- ・学部時代はへき地へ行く経験がなかったので、今回のキャラバンは私自身にとってとても貴重な体験になりました。実際に行って見る前のイメージと同じだったのは、屈斜路などの小学校では全校生徒が少ないことから、低学年の児童と高学年の児童との距離がとても近く、児童一人一人が生き生きしているように感じられました。そのようなところにへき地の魅力を感じました。
- ・へき地といっても今回の公演した街は、私にとっては比較的豊かな街だと感じた。しかし、高齢化社会といわれているよう子どもの人口が少ないせいばかりかあまり芸術文化活動に対する活気は見られないため、このような公演を行うことは少なからず、その時だけでもその町の方に芸術文化に親しみや興味をもってもらえる意義があると感じている。親しみや興味をもつことで、次の活動や街を盛り上げることにもつながると感じた。
- ・実際の現場や子どもと触れ合うことによってその場に合った教え方や考え方があることを知ることが出来て良かったです。教育の現場も様々であり、生徒に合わせて自分の行動を変えていくことの大変さもよくわかりました。

主に下線を付した部分からは、地域について感じたこと、その地域の子どもたちと触れ合って考えたこと、アウトリーチの意義について等を読み取ることができる。

②この実践（へき地をはじめとする各地において出前演奏すること）自体への感想

- ・お客さんとの距離が近く、いっしょにコンサートをつくりあげている感じがした。暖かい雰囲気が多かった。音楽に触れる機会が少ないためか、興味を示してくれていた。自分たちが行ったことに反応や笑顔がかえってくることにやりがいを感じた。
- ・演奏等を行っていて、素直にすごく楽しかったし、子どもたちの反応が嬉しかったです。自分が何かしたことで人が笑顔になるというのはこんなにも嬉しいのだなと思いました。とても大きなツアーで時間も限られている中

だったので大変なこともみんなあったと思いますが、その分話し合ったり工夫したり協力し合ったりして全公演を無事に終えることが出来たというのはすごく達成感がありました。回数を重ねていくうちに感覚をつかんでいくことができ、工夫改善して行うこともできました。また、私自身人前で歌った経験がほとんど無かったので、今回お客さんがいる中で歌わせていただいて勉強になったと同時に、終わったあと「歌声すごく綺麗だったよ」と観ていた方に褒めていただくことがありとても嬉しかったです。

- ・初めての経験だったけれど積極的な子供たちや現地の先生方にも助けられて無事楽しく終えることができた。何日か連続でやることで他学年交流も深められた。「楽しかった」「また来てください」と前向きな言葉ももらえて嬉しかった。
- ・今回、様似にて来場者のほとんどが大人の演奏会をしたことも初めての経験でした。興味があるない以前に日曜日でも仕事があったり、出掛ける用事があったりというのが、へき地の方が多いことを実感しました。演奏会中、参加型の部分も多かったと思いますが、最初は抵抗がありつつもだんだん殻を破っていく様子が印象的でした。大人になればなるほど、特に「くっつけ〜」（筆者注：舞台に向かって聴衆に念力を送ってもらうパフォーマンス）などは恥ずかしがってやらないと思いますが、それでもやれる度胸が、他の地域でも同じように出来るのか疑問に思いました。
- ・今回のような形式の演奏も初めての経験でしたが、通常のクラシックの演奏会だけでは感じることの出来ない感覚がありました。演奏を聴いてくれている子供たちや先生方が、演奏者である私たちと一緒に音楽を楽しんでいたのではないかと思います。その一体感が音楽を共有出来ている感じがしました。
- ・このような観客の中に入って演奏する演奏会はあまりないと思われるが、観客との距離が近い分、触れ合いながら音楽を楽しんでもらえたのではないかと思います。まさに、音を楽しむこと「音楽」を自分自身も実感し、観客にも少しは伝えられたのではないかと思います。今回は一部、現職の先生方とのコラボがあり、教師として子どもたちとどう関わっているか（話し方など）が見られて良かったです。
- ・音楽についての知識や経験がない子どもに対する活動はとても深い意味があり、またそういった活動に参加出来たことは私自身の今後に深い影響を与えたと思います。今後の教育現場がどのように変化するのは分かりませんが、この経験は様々な場所で生かせる良い経験であったと思います。

主に下線を付した部分からは、自分の行為の価値に気付いた様子、成長の実感、へき地の聴衆の積極性を引き出すこと、また、現職教員との共演が良い経験になったという

ことを読み取ることができる。

③早川氏（効果音ヴァイオリニスト）と共演したことについての感想

- ・学ぶことが多い。相手の心を掴むことについてや、間の取り方、動きなどを直接教えてもらえるのがよかった。即時フィードバックができるのがよかった。指導してもらえる時間がもう少しあれば、更に深められたと思う。学生のプログラムに入る前に、場を暖めてくれるので、安心して出ることができた。
- ・バイオリン奏者、また芸人さんということもあり、私たちだけで行うよりも様々な意味で幅が広がるなと思いました。私は音楽と関わって生きてきましたが、弦楽器というものを身近で見たり、また詳しく知ったりということは今まで無かったので、子どもたちにとってこのような経験は大変貴重だと思います。また、早川きよーじゅの芸により、バイオリン＝クラシック＝堅い＝近づき難いというイメージがよい意味で崩れ、バイオリンを身近に感じたり興味を持ったりする子どもが多くいたと思います。また、私自身も吸収することがとても多く、観客に対しての魅せ方やひきつけ方など大変勉強になりました。
- ・身近に弦楽器を演奏できる人が少ないので、早川さんの演芸の内容から学べたヴァイオリンについての知識がとても多かった。演奏中に表情も使って表現していたり、視覚からの情報も多く参考になった。
- ・早川さんの芸は、何度も見ることでより深みが増すことを感じました。ぜひ、また同じ地域に行ってコラボしたいと思っています。音楽教育概説の授業でもありましたが、ヴァイオリンのこれを伝えたい、これを身に付けたいというときに、それまでの流れが大切で、でも一つ一つ丁寧に進めていくことの重要性を学びました。
- ・普段は弦楽器であるバイオリンと共演する機会はなかなかないので、同じ舞台でその音色を聴けたことはとても新鮮でした。また早川さんは子供たちの心をつかむのが上手なだけでなく、子供たちのことを本当によくみて考えていらっしゃるんだなと思いました。
- ・演示技術をただ学ぶ・教えてもらうだけではなく、実際にプロの芸人さんと一緒にコラボすることで、より細かな部分や演示技術を学ぶことができた。
- ・自分の演奏によって人に笑顔を与えるということについてしっかり見たのは今回が初めてでした。音楽を伝えるという方法の多様さを深く知ることができたと思います。

主に下線を付した部分からは、演芸の手法の教育技術への援用、また、その具体的方法について学べた様子が見て取れる。

④自分変化や学習効果等に関する感想

- ・人前に立つことに以前より慣れた。声の飛ばし方や、物

の見せ方などに意識を向けることができるようになってきた。会場の奥まで笑いや反応が起こったときに嬉しく思った。コンサートをきっかけに、楽器に興味をもってくれる子どもがいることが嬉しかった。

- ・キャラバン中の自分の変化としては、大きく分けて2つあります。1つ目は、③でも触れたのですが、話したり魅せたりする時の技術です。初めは決められた動作をするので一杯いっぱいだったのですが、演技指導をいただいたり、早川きょーじゅの演技を観たり、自分でも試行錯誤したりしていくうちに少しずつ、様似公演辺りから、今観客にどう見えているかということをやりながら意識できるようになりました。動作の間もどのようにしたらより伝わるか、面白くなるかを感覚的に捉えられるようになってきました。教育実習で授業をさせていただいた時も同じことを感じたことがあります。最初のうちなどやるだけで一杯いっぱいのときは、子どもたちが今のくらいわかっているか、なにを思っているかなどがわからず、ただ決めていたことをこなすだけになってしまうことがありました。しかし、毎日授業をさせていただいたり、毎日放課後に担当の先生にご指導をいただいたり、多くの先生の授業を参観させていただくことを通して、少しずつですが自分の授業でも子どもたちの様子をみて当てたり、子どもたちと会話をするように授業をすすめたりできるようになってきました。今回のキャラバンの学びも実際に教員になった時に生かしてやっていきたいです。2つ目は、まわりの人との関わりについてです。今まで自分はあまり人と関わるのが得意ではなく、1人でやったり行動したりする事が多くありました。今回キャラバンでメンバーとずっと一緒に過ごしたことにより、協力してなにかをするのはすごくいいことだと強く感じました。協力するからこそ、苦手なことを助けてもらったり、また相手をフォローしたりして、よりよいもの、大きいなものを作り上げることができるのだなと思いました。また、普段から話したり関わったりすることでその人のことを知り、いざ何かをするという時にその人のことをわかった上でできるので、普段の何気ない関わりも大事にするべきだと感じました。教員になったら、学年団などチームで動くことも多くあると思います。その時には、普段からたくさん話し合って関係性を深めたり考えをすり合わせたりすることで、助け合ったりよりよい教育活動をしたりできるようにしたいと思いました。
- ・ゲームを通して読譜力が一時的に身につくことがわかった。継続して行えばどのくらい身につくのか観察しつつ、子供が飽きないような工夫を加えながら改良していくことが今後の課題だと思った。準備することも多く場当たりで初めてやったりすることもあり、適応力や表現力、コミュニケーション能力が鍛えられたと思う。
- ・今回キャラバン初参加の人が多く、お客さんに演奏や演芸を伝える前に自分たちの関係づくりができていないと

演奏会の成功が難しいと学びました。私たちの中の気まぐさや距離の隔たりをなくすために、初日のカラオケや飲み会、長時間の移動中の会話は大切であるとあらためて学びました。相手を知ることで、演奏会中もアクシデントが起きてもなんとかフォローし合えたのだと思うし、もう何ヶ月もずっと一緒に旅をしている仲間のように感じたのだと思います。自分の変化について実感は少ないですが、長期間大人数でいることで関係の築かれ方や信頼して任せ合うことを知ることができました。

- ・キャラバンを終えて、活動参加する前よりも人前に出るときに恥を捨て堂々とした自分でいられるようになったと思います。これは教育現場だけではなく、これから様々な場面で生かせる事だと思うので、もっとこの力を高めていきたいです。また、ユーフォニアムという楽器について、私が予想していたよりも楽器の認知度があったのではないかと思います。普段自分が楽器をやっている立場にいと、客観的な視点からこの課題については見ることが出来ないなのでこのことは新たな発見でした。今後参加するキャラバンではユーフォニアムのコーナーを発展させて行けるよう試行錯誤していきたいと思います。
- ・観客の対象に合わせて話からや説明の仕方を変えることの重要性、特に小学生低学年に対して説明する時に、どのように話したら子どもの頭に？が浮かばず、すんなり理解できる説明や内容、話し方など早川さんや現職の先生方から学ぶことができた。これをこれからの実践や自分が教員になった時に生かしていきたいと感じた。
- ・授業の構成や進行などについて今までアバウトにしか考えられていなかったのですが、今回の活動で子供たちの反応や先生や先輩方の進行を見て、自分の今後について深く考える機会になりました。これを踏まえた上で学業などに対する態度を一新しようと思います。

主に下線を付した部分からは、技術的なことに関する上達の実感、協働の有効性や大切さに関することを読み取ることができる。

以上のように、教員養成としての意義という色彩を強くもった取組のため、共演する後輩である学生の存在が、音楽アニマシオンの実践に関わる現職教員にとって刺激となるものと推察する。

5 音楽アニマシオンに関するアンケート内容と結果

(1) 本実践に向けた試行実践において得たコメント

現職教員を加えた実践を行うにあたり、平成30年3月に東京都江東区立砂町小学校において、ヴァイオリン経験者である豊島優子教諭の協力のもと、前出の早川氏を交えて音楽アニマシオンを試行した。そこでは、以下のような感想を得た(原文ママ、下線は筆者)。

- ・小学校三年生から、学生オケ～社会人オケと、ずっとオー

- ケストラで演奏していたが、働いてからは気持ちはあるものの時間的に余裕がなかった。久しぶりにバイオリンを弾くことができ、聞いてもらえて、本当に楽しかった。
- ・ちゃんと演奏するのは、10年ぶりくらいなので、話を受ける（筆者注：演奏会への出演を承諾すること）には、勇気がいる。
 - ・ブランクがあると以前のような音色が出せない（練習して取り戻す時間もない）、一曲を演奏するとなると、プレッシャーがかなり大きい。フレーズごとに演奏（筆者注：1曲通して演奏するのではなく、フレーズごとに豊島教諭と早川氏が交互に演奏する等の方法）すると、気持ちが軽くなり、とてもやりやすいと思った。早川さんのすてきな演奏に自分ものって、楽しく演奏できた。早川さんが一緒に弾いてくれて、本当に安心して取り組みました。
 - ・今回バイオリンを演奏したことで、ピアノを練習し、音楽専科（臨時で一年だけ＝筆者注：豊島教諭は音楽専科教諭の経験をもつが、以降は学級担任として勤務）の時のように、ピアノ伴奏を弾いて、歌を教えてみました。
 - ・音楽を教える楽しさを思い出し、江東区は講師の枠も多いので、退職後は、低学年の音楽講師もいいな～なんて思いました。
 - ・授業が終わってからも、しばらく楽しい気持ちが続きました。音楽ってやっぱりいいな～と思いつつ過ごすごうございました。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

以上の、主に下線を付した部分から、この試行により、音楽アニメーションの一定の効果を予測することができた。また、共演を呼びかける方法や、演奏会の実施方法について、示唆を得た。それは、例えば、演奏する楽曲は1曲程度に抑えることや、演奏に関して支援を行うことなどを出演を打診する際に伝えること等の必要性についてであった。

（2）本実践におけるアンケート結果と考察

へき地をはじめとする地方における音楽アニメーションの演奏会（平成30年5月25日～29日に、弟子屈町、帯広市、様似町、新ひだか町、旭川市の5地域にて6公演を実施）について、演奏した教員に対するアンケート結果をSCATによって分析し、考察する。SCAT（Steps for Coding and Theorization）⁹⁾とは、質的データ分析のための手法の一つである。観察記録や面接記録などの言語データをセグメント化し、そのそれぞれに、〈1〉テキスト中の注目すべき語句、〈2〉それを言いかえるためのテキスト外の語句、〈3〉それを説明するための、〈4〉そこから浮き上がるテーマ・構成概念の順にコードを考案して付していく4ステップのコーディングと、そのテーマや構成概念を紡いでストーリー・ラインと理論を記述する手続きとからなる分析手法である。

①演奏への参加の有無にかかわらず、現地の教員に対して行った、本実践についてのアンケートの結果

設問は、「地域貢献として」「教員養成として」「子どもたちへの教育として」「先生方にとって」「自由記述」という項目を設けておき、思い思いに書いてもらう形をとった。記述内容のSCATによる分析を、次ページ以降の【表1-1】【表1-2】として掲出した。

その結果、本実践が「大学と地域が連携をして文化的発展につながる活動である」こと、教員養成としての学生の経験値向上や音楽の教育的意義を実感できる活動であること、子どもたちに様々な切り口から、音楽の楽しさを感じさせることのできる活動であることが明らかになった。すなわち、「大学の教員養成や地域貢献としての役割を果たし、子どもたちへの音楽の教育的意義を実感できる活動である」といえる。また、さらに追求すべき点としては、「子どもたちも一緒になって演奏に参加できるような体験的なことをさらに充実させたプログラムをつくること」や「活動自体の宣伝・広告を充実させること」、および、「こうした活動に学生が取り組めるための研究費（活動費）の確保」ということが挙げられる。

【表 1-1】本実践に関する地域の教員の感じ方～1

番号	テキスト	(1) テキスト中の注目すべき語句	(2) テキスト中の語句の言い換え	(3) 左を説明するようなテキスト外の内容	(4) テーマ・構成概念(前後)や全体の文脈を考慮して	(5) 疑問・課題
1	(地域貢献として) 文化的なギャップを埋める意味も大きい取り組みですね! (教員養成として) この部分の効果が予想以上に大きいと思います! (子どもたちへの教育として) 楽器を見たことが子供もいると思うので得意があります! (先生方にとって) 教材提示の方法を学ぶ、考える機会になりますね。 (自由記述) 実施する側も受け取る側も得るものが大きい活動だと思えます。一番学んだのは大学生達かもしれないですね。	文化的なギャップを埋める 効果が予想以上 意義があります 教材提示の方法 学んだのは大学生	文化的な差を埋める 効果的 有意義 教材の提示方法 大学生への効果 有意義な活動 学生への経験 音楽への興味 音楽演奏 音楽を楽しむ学べる 興味・関心を高める 授業	テキスト外の内容 文化的価値観の差を埋める 予想外の効果を発揮 教育的意義 教員養成としての効果 地域貢献、教員養成として 有意義な活動 子どもたちの興味・関心を引く コンサートの部分もあると良い	文化的価値観の差を埋め、学校教育現場や教員養成としての効果がある活動	子どもたちも演奏に参加する
2	(地域貢献として) 大変すばらしい活動だと思えます。 (教員養成として) 大変良い経験になると思えます。 (子どもたちへの教育として) 音楽に興味をもつきっかけとなり、すばらしいです。 (先生方にとって) またお願いしたいです。 (自由記述) 楽しい部分が多かったので、本格的な演奏も、もっと聞いてみたかったです。子どもたちもリコーダーなどで参加するのも良いですね。	すばらしい活動 良い経験 音楽に興味 本格的な演奏	音楽を楽しむ学べる 興味・関心を高める 授業	音楽の教育的意義	音楽の教育的意義を感じられる活動	
3	(子どもたちへの教育として) 音楽いやだ～と朝言っていた子がニコニコしながら参加していました。音楽のたのしさを伝えられる機会があるってとてもいいことだと思います! (先生方にとって) マンネリ化しやすい音楽の授業、こんな風にしたのしく、音がかくに観しめる授業をやってみてみたい～と感じました!	音楽のたのしさを伝えられる機会 音楽に親しめる授業	音楽を楽しむ学べる 興味・関心を高める 授業	音楽の教育的意義	音楽の教育的意義を感じられる活動	
4	(地域貢献として) 大学の取り組みを社会に知ってもらえる場となる。 (教員養成として) 音楽を通じてたのしみを知ることが大切となる。 (子どもたちへの教育として) 表現と鑑賞を体験できる場となる。 (先生方にとって) 音楽のよさを再確認できる場となる。 (自由記述) 学生たちがのびのびと活動できる研究費(活動費)を大学がきちんとつけてほしいです。	大学の取り組みを社会に知ってもらう場 音楽を通じてたのしみを知ることが大切 表現と鑑賞を体験できる場 表現と鑑賞を体験できる場 音楽のよさ	大学として社会や地域への貢献 音楽でのつながり 表現と鑑賞を同時に体験 音楽の意義	地域貢献 表現と鑑賞の一体 音楽の教育的意義	表現と鑑賞の一体を通して音楽の教育的意義を感じられ、地域貢献としての効果がある活動	学生たちが活動できる研究費(活動費)を大学がきちんとつけてほしい
5	(地域貢献として) 大学の良さを感ずる機会になる (教員養成として) 教育現場を知る機会になる (子どもたちへの教育として) キャリア教育の一環となる (先生方にとって) 自分たちのできるパフォーマンスの楽しさを改めて感じられる	大学の良さ 教育現場を知る機会 キャリア教育 自分たちのできるパフォーマンスの楽しさ	大学の意義 教育現場の実態 キャリア教育 教員自身が音楽を楽しむ	教員養成としての学生の経験値の向上 キャリア教育や音楽の教育的意義	教員養成としての大学の役割や子どもたちのキャリア教育の一環となる活動 音楽の教育的意義を感じられる活動	
6	(地域貢献として) 大学と地域がともに発展するというメッセージを実感できる取組だと思えます。 (教員養成として) 学生さんにとっては学校現場での実践になったと思えます。 (子どもたちへの教育として) 様々な切り口から、音楽の楽しさを十分に味わえたと思えます。 (先生方にとって) 授業展開や子どもたちを引きつける工夫など、普段の授業のヒントとなる活動がらめばめられており、勉強になります。 (自由記述) いつもありがとうございます。	大学と地域がともに発展する 学校現場での実践 音楽の楽しさを味わう 子どもたちを引きつける授業の工夫、授業へのヒント	大学と地域の連携 教育現場の体験 音楽の楽しさを味わう 子どもたちを引きつける授業の工夫、授業へのヒント	地域との連携を実感 教員養成としての学生の経験値の向上 音楽の教育的意義 授業づくりのヒント	地域との連携や教員養成としての大学の役割を実感できる活動 音楽の教育的意義を感じられる活動 授業づくりのヒントが得られる活動	

【表1-2】本実践に関する現地の教員の感じ方～2

番号	テキスト	(1) テキスト中の注目すべき語句	(2) テキスト中の語句の言いかえ	(3) 左を説明するようなテキスト外の内容	(4) テーマ・構成概念(前後)や全体の文脈を考慮して教師自身が音楽に触れられる機会	(5) 疑問・課題
1	<p>・仕事にかける時間が多いため</p> <p>・このキャラバンのお陰で楽器に久々に触れることができました。</p> <p>・演奏技術の低下をカキキリと感じました。すみません…</p> <p>・やはり人前に立つ、というのは勉強になりますね。</p>	<p>楽器に久々に触れる演奏技術の低下人前に立つ、というのは勉強になります</p>	<p>久々の楽器演奏楽器の技術低下人前に立つのは勉強になる</p>	<p>楽器を演奏できる機会</p>	<p>教師自身が音楽に触れられる機会</p>	<p>教師の多忙化</p>
3	<p>・機会が今まで全くなく、楽器にふれられなくなってしまった。</p> <p>・音楽が好きなので、楽器にふれる時間や機会があればいいな～と思います。</p> <p>・みんなが演奏できたことが楽しかったです。</p> <p>・出来栄は上手くないっていいないけれども、みなさんと一緒に誰かの前で吹けたのがとても良かったです。</p> <p>・今まで楽器からはなれていたので、また吹きはじめたみたいかな～と思います。</p>	<p>楽器にふれる時間や機会があればいいみんなが演奏できた誰かの前で吹けたまた吹きはじめたみたいかな</p>	<p>演奏できる時間と機会が欲しい大人数での演奏人前での演奏</p>	<p>楽器を演奏できる機会</p>	<p>教師自身が音楽に触れられる機会</p>	<p>教師の多忙化演奏の機会が現象</p>
4	<p>・業務多忙、子育てのため</p> <p>・演奏は機会がある程度でOK。業務実践も含めて音楽ができますので…</p> <p>・深く考えずに楽しく演奏できました。</p> <p>・子どもたちとその保護者に楽器(Oboe)のよさを伝えられてよかったです。</p> <p>・日常的に学級担任としての実践につなげたい。</p>	<p>機会がある程度でOK、業務実践深く考えずに楽しく楽器(Oboe)のよさを伝えられてよかった学級担任としての実践</p>	<p>授業実践があるためある程度でOK</p>	<p>子どもたちに楽器のよさを伝えられる機会</p>	<p>音楽の教育的意義を実感できる機会</p>	<p>教師の多忙化</p>
5	<p>・日々の教材研究が上手くいかない</p> <p>・もともと心に余裕をもって音楽のよさを自分ももつと感じた</p> <p>・楽しかったです</p> <p>・あまり上手くできなかつた</p> <p>・もともと自分もがんばる必要がある</p>	<p>楽しかった上手くできなかつた自分もがんばる必要がある</p>	<p>楽しい音楽活動</p>	<p>教師自身が音楽を楽しむ</p>	<p>教師自身が楽しく音楽に触れられる機会</p>	
7	<p>・十分ではないが、日常的に楽器があり、ふれる機会はある</p> <p>・とりあえずは、今くらいで十分</p> <p>・楽しかった</p> <p>・ウォーミングアップ不足</p> <p>・普段、音楽の楽しさを忘れがちだな…</p>	<p>楽しかった音楽の楽しさを忘れがち</p>	<p>楽しい音楽活動</p>	<p>教師自身が音楽を楽しむ</p>	<p>教師自身が楽しく音楽に触れられる機会</p>	
10	<p>・演奏の機会がない</p> <p>・音楽の知り合いが増える場をもっと増やしたい</p> <p>・事前打ち合わせをもっとすべきでした</p> <p>・上出来</p> <p>・この活動に参加できてよかった</p>	<p>音楽の知り合いが増える場</p>	<p>音楽仲間を増やす機会</p>	<p>音楽活動を通しての関わり</p>	<p>音楽活動を通して仲間を増やす</p>	<p>演奏の機会が減少</p>

ストリーライオン(現時点で言えること)

子育てや職務の多忙により教員自身が音楽や楽器に触れられる機会が減少している。そのような中で、この活動に参加することで、音楽や楽器に触れることができ教員自身が音楽の楽しさを改めて実感できる場である

また、子どもたちや、その保護者にも音楽の楽しさを伝えられる活動である

教員自身が音楽や楽器に触れることができ、音楽の楽しさを実感できる場である

子どもたちや、その保護者にも、音楽の教育的意義を実感させることのできる活動である

職務の多忙化により、自身が楽器に触れられる時間が減少している

ハき地には、演奏会などの機会が少なく演奏の場がない

【表2】演奏に参加した教員の感じ方

番号	テキスト	(1) テキスト中の注目すべき語句	(2) テキスト中の語句の言い換え	(3) 左を説明するようなテキスト外の内容	(4) テーマ・構成概念(前後)や全体の文脈を考慮して教師自身が音楽に触れられる機会	(5) 疑問・課題
1	<p>・仕事にかける時間が多いため</p> <p>・このキャラバンのお陰で楽器に久々に触れることができました。</p> <p>・演奏技術の低下をハッキリと感じました。すみません…。</p> <p>・やはり人前に立つ、というのは勉強になりますね。</p>	<p>楽器に久々に触れる演奏技術の低下人前に立つ、というのは勉強になります</p>	<p>久々の楽器演奏楽器の技術低下前に立つのは勉強になる</p>	<p>楽器を演奏できる機会</p>	<p>教師自身が音楽に触れられる機会</p>	<p>教師の多忙化現象</p>
3	<p>・機会が今まで全くなく、楽器にふれられれていなかった。</p> <p>・音楽が好きなので、楽器にふれる時間や機会があればいいな〜と思います。</p> <p>・みんなが演奏できたことが楽しかったです。</p> <p>・出来栄は上手いっていいですね。みなさんと一緒に誰かの前で吹けたのがとても良かったです。</p> <p>・今まで楽器からはなれていたので、また吹きはじめてみようかな〜と思いました。</p>	<p>楽器にふれる時間や機会があればいいみんなが演奏できた誰かの前で吹けたまた吹きはじめてみようかな</p>	<p>演奏できる時間と機会が欲しい大人数での演奏人前での演奏</p>	<p>楽器を演奏できる機会</p>	<p>教師自身が音楽に触れられる機会</p>	<p>教師の多忙化現象</p>
4	<p>・業務多忙、子育てのため</p> <p>・演奏は機会がある程度でOK。業務実践も含めて音楽ができてますので…。</p> <p>・深く考えずに楽しく演奏できました。</p> <p>・子どもたちとその保護者に楽器(Oboe)のよさを伝えられてよかったです。</p> <p>・日常的に学級担任としての実践につなげたい。</p>	<p>機会がある程度でOK、業務実践深く考えずに楽しく楽器(Oboe)のよさを伝えられてよかったです学級担任としての実践</p>	<p>授業実践があるためある程度でOK</p>	<p>子どもたちに楽器のよさを伝えられる機会</p>	<p>音楽の教育的意義を実感できる機会</p>	<p>教師の多忙化</p>
5	<p>・日々の教材研究が上手くない</p> <p>・もともと心に余裕をもって音楽のよさを自分ももつと感じた</p> <p>・楽しかった</p> <p>・あまり上手くできなかった</p> <p>・もともと自分もがんばる必要がある</p>	<p>楽しかった上手くできなかった自分もがんばる必要がある</p>	<p>楽しい音楽活動</p>	<p>教師自身が音楽を楽しむ</p>	<p>教師自身が楽しく音楽に触れられる機会</p>	
7	<p>・十分ではないが、日常的に楽器があり、ふれる機会はある</p> <p>・とりあえずは、今くらいで十分</p> <p>・楽しかった</p> <p>・ウォーミングアップ不足</p> <p>・普段、音楽の楽しさを忘れがちだな…</p>	<p>楽しかった音楽の楽しさを忘れがち</p>	<p>楽しい音楽活動</p>	<p>教師自身が音楽を楽しむ</p>	<p>教師自身が楽しく音楽に触れられる機会</p>	
10	<p>・演奏の機会がない</p> <p>・音楽の知り合いが増える場をもっと増やしたい</p> <p>・事前打ち合わせをもっとすべきでした</p> <p>・上出来</p> <p>・この活動に参加できてよかった</p>	<p>音楽の知り合いが増える場</p>	<p>音楽仲間を増やす機会</p>	<p>音楽活動を通しての関わり</p>	<p>音楽活動を通して仲間を増やす</p>	<p>演奏の機会が減少</p>

ストリープライオン(現時点で言えること)

子育てや職務の多忙により教員自身が音楽や楽器に触れられる機会が減少している。そのような中で、この活動に参加することで、音楽や楽器に触れることができ教員自身が音楽の楽しさを改めて実感できる場である

また、子どもたちや、その保護者にも音楽の楽しさを伝えられる活動である

教員自身が音楽や楽器に触れることができ、音楽の楽しさを実感できる場である

子どもたちや、その保護者にも、音楽の教育的意義を実感させることのできる活動である

職務の多忙化により、自身が楽器に触れられる時間が減少している

へき地には、演奏会などの機会が少なく演奏の場がない